# SHOW-HEYシネマルーム

★★★★★

# スリーデイズ

2010年・アメリカ映画
配給／ギャガ
134分

2011（平成23）年7月22日鑑賞　｜　GAGA試写室

**Data**

監督：ポール・ハギス
出演：ラッセル・クロウ／エリザベス・バンクス／ブライアン・デネヒー／レニー・ジェームズ／オリヴィア・ワイルド／タイ・シンプキンス／リーアム・ニーソン／ダニエル・スターン／ケヴィン・コリガン／ジェイソン・ベギー／アイーシャ・ハインズ／アラン・スティール／ＲＺＡ

## みどころ

**『すべて彼女のために』（０８年）と題された９６分のフランス版も良かったが、１３４分という長尺になったハリウッド版もグッド！愛する妻の無実を信じ、法的手段が尽きたとみると敢然と妻の脱獄を決行する主人公に拍手！「法は守るべき」などという通り一辺のお題目はこりごりだ！**

**とはいっても、どうやって脱獄を成功させ、一人息子を連れて無事国外に逃亡するの？愛は法律よりも強し！そんなことは当たり前だが、しっかり計画した知能戦に勝利する、しがない中年おじさんを演ずるラッセル・クロウに大拍手！**

## ■□■「時間しばりモノ」にも多くの名作が！■□■

スリルとサスペンスを追求する映画は、時間との競争が不可欠だ。『００７』シリーズにも、爆発物の起爆装置の解除に必死になるジェームス・ボンドの姿に手に汗を握りながら注目していると、ラスト７秒でやっと解除に成功。そんなシーンがあったような気がする。タイトルでも、『１２７時間』（１０年）（『シネマルーム２６』１５頁参照）や『９６時間』（０８年）、『9デイズ』（０２年）（『シネマルーム２』９２頁参照）、『１３デイズ』（００年）（『シネマルーム１』６３頁参照）、『四日間の奇蹟』（０５年）（『シネマルーム８』１７３頁参照）等がある。また『２８日後...』（『シネマルーム３』２３６頁参照）、『２８週後...』（０７年）（『シネマルーム１８』３６４頁参照）や『４ヶ月、３週間と２日』（０７年）（『シネマルーム１８』３３４頁参照）というやけに細かいタイトルの名作もある。さらに、『４６億年の恋』（０６年）（『シネマルーム１２』２９９頁参照）というバカ長いオーダーのも

のも。

しかして、本作の邦題は『スリーデイズ』だが、これでは本作の本質を伝えるには若干不十分。原題は『Ｔｈｅ　Ｎｅｘｔ　Ｔｈｒｅｅ　Ｄａｙｓ』だから、より正確に『残された３日間』としたほうがよかったのでは？それはともかく、私はかねてより「潜水艦モノ」には名作が多いと指摘してきたが、このような「時間しばりモノ」にも多くの名作が！しかして「残された３日間」とは一体何？

それは、無実の罪で殺人罪の汚名を着せられた愛する妻ララ・ブレナン（エリザベス・バンクス）を脱獄させるのに残された日数のことだ。カレッジ教師のジョン・ブレナン（ラッセル・クロウ）が、面会した妻から「３日後には長期監獄に移送される」と聞かされたジョンはびっくり。なぜならララの身柄が刑務所から別の場所に移ってしまえば、せっかくジョンが自宅まで売り払って資金を作り、綿密につくりあげた脱獄計画が無意味になってしまうからだ。さあ、ジョンに残された時間は３日のみ。そこでジョンはいかなる決断を？

## ■□■フランス版も、ハリウッド版もよし！その違いは？■□■

ハリウッド映画にシリーズものが多くなっているのは、きっとネタが不足しているためだ。そこでハリウッドは、諸外国の名作のリメイクに熱心になっている。しかして、本作はフレッド・カヴァイエ監督のフランス映画『すべて彼女のために』（０８年）のハリウッド版リメイクだが、かなりの映画通でなければそのフランス映画を知らないのでは？とは言っても、このフランス版は脚本もよければ俳優もよし。また、ふんだんに知能を使ったスリルとサスペンスに富んだ脱獄劇は一級品で、私の採点は星５つ（『シネマルーム２４』１７３頁参照）だった。

他方、今やハリウッドを代表する俳優となったラッセル・クロウは、筋骨逞しいグラディエイターやロビンフッド、更にヘビー級ボクサーもＯＫなら、本作のようなしがない教師役での知能ゲームにも冴えた味をみせてくれる。ジョンの妻を演ずるエリザベス・バンクスは、フランス版に登場したドイツ出身の美人女優ダイアン・クルーガーの美しさには及ばないが、それは本作の出来とは関係がない。

映画冒頭の、車を運転するジョンの表情は必死だが、それはなぜ？また、ジョンとララ夫婦とララの友人ニコール（オリヴィア・ワイルド）らの冒頭でのおしゃべり風景が持つ意味は？続いて登場するララの逮捕シーンはフランス版と全く同じだし、ララはなぜ自分のコートに付いている血を洗い流そうとしたのかに始まる、描かれるネタも全く同じ。その他、本作のストーリーの筋はフランス版と次の２つを除いて全く同じだ。

違いの第１は、封鎖できる橋やトンネルが多いピッツバーグは脱獄の難易度が高く、中心部が完全封鎖されるのに１５分、高速料金所に警官が配置されるまでに３５分ほどしか余裕がない、という設定の妙味。したがって、ハリウッド版ではタイトルにおける３日間

というしばりの他、１５分と３５分というしばりも・・・。違いの第2は、フランス版は９６分とコンパクトだったが、ハリウッド版は１３４分と長尺なこと。中盤のネタ仕込の部分はもう少し短くできるのではないかと思わないでもないが、ラストに向けての緊張感はさすがだから、この長さは気になるものではない。むしろこれは、フランスとアメリカの映画作りに対するスタンスの違い？

## ■□■脱獄にも学びと研究が不可欠！■□■

法律専門家たる弁護士は相談者や依頼者に法律を教えるのは当然だが、違法なことを教えてはダメ。他方、警察官は捜査のプロだから、情報をいっぱい持っているのは当然だが民間に再就職した後それを己の利得のために使ってはダメなことは当然。したがって、去る７月２２日に発覚した、品川美容外科に就職した元警視庁の警部たちによる捜査情報漏洩事件は言語道断。しかし、本作に見る脱獄のプロ、即ち７回の脱獄経験を持ち、『塀を越えて』の著者でもあるデイモン・ペニントン（リーアム・ニーソン）はすべて自分の責任で処理しているのだから、立派な職業？それはともかく、ジョンがこの脱獄の専門家に教えを乞おうとしたのは立派だし、ジョン自身の研究の姿勢もお見事。今どきの出来の悪い政治家や弁護士は、すべからくこのカレッジ教師の学びと研究の姿勢に注目すべきだ。

ジョンが何をどのように考えているのかは、壁一面に貼った地図とそこに書き込んだ各種の情報によって観客にも一部はわかるが、実はジョンの頭の中には私たちの想像をはる

かに超える計算が詰まっていたことがラストに向けて明らかになるからそれをお楽しみに。スラム街の麻薬密売人ムース（ＲＺＡ）との接触や、自分をひどい目に合わせて金をふんだくっていった麻薬密売人グループのアジトを襲うシーンで、ジョンが教師風からグラディエイター風になってしまうのはご愛嬌だが、殺人や放火の罪まで犯してなおララの脱獄に執念を燃やすジョンの勝算は？

## ■□■なるほど！なるほど！の「知能戦」に拍手！■□■

いつも面会に来てくれるジョンのおかげで何とか精神の安定を保っていたララだったが、絶望感に苛なまれる中、ある時ついに「本当は私がやったのかも・・・」とカマをかけるような発言も・・・。それに対する俳優ラッセル・クロウの「回答」は、言葉ではなく表情だけ。いったんは外に出たジョンだったが、再度面会に戻ると、そこでは電話越しに「君はやっていない！君の人生を取り戻す」という力強い言葉をララに投げかけたから、これにはさすがにララも大感動！そんな涙を誘うシーンを見せた後、遂にジョンは脱獄計画の実行に！

手始めはララを刑務所から大学病院に搬送させるべく、ララが強度の糖尿病を患っているという虚偽のカルテ作りからだ。運転手が離れている間に、「医学分析研究所」の車の中に入り込んだジョンは、まんまとララのカルテのすりかえに成功。その数値を見て驚いた刑務所の女性医師は直ちにララを大学病院に搬送するよう命じたが、さてここからジョンはどんな計画を？それは映画を観てのお楽しみだが、フランス版と同様ポール・ハギス監督は人間の思い込み＝錯覚を利用した巧妙なジョンの計画を見事に描いていくから、それに注目！

医師に化けたジョンが目の前に現れるのを見てビックリしたララは脱獄を断固拒否したが、一人息子のルーク（タイ・シンプキンス）を「一人にさせていいのか？」とのジョンの問いかけの前に、ついに逃走を決意。しかし、既に病院にはララの脱獄計画の主犯はララの夫と気付いたナブルシ警部補（レニー・ジェームズ）の捜査の手が・・・。ジョンの車は地下の駐車場に置いてある。ピストルを突きつけて刑事たちを脅したジョンは今２人でエレベーターの中だから、地下の駐車場で待機すればその逮捕はたやすい。ナブルシ警部補はそんな目算をたてたが、そんな中でみせるジョンの奥の手は？

## ■□■脱走は車？地下鉄？列車？飛行機？■□■

車に乗らず、病院の正面玄関から正々堂々と（？）間一髪で逃げ出したジョンとララは一路地下鉄に向かった。それを発見したナブルシ警部補は直ちに地下鉄の車両を止めるよう指示したが、それが間に合わないとみると、多くの警察官を次の駅に配置。しかも、自らは走って車両を追いかけたから、これにてジョンとララの２人は完全にアウト。誰しもそう思ったが、実は・・・？

用意周到な準備を仕掛けてあった場所で地下鉄を手動で急停車させたジョンは、あらかじめそこに駐車させていた車に乗り込んだ。あとは息子のルークと合流して、予定どおり空港へ向かうだけ。なるほど、ここまで用意周到な準備をしていれば、脱獄のプロであるデイモンも舌を巻く脱獄テクニック！そんな風に感心していたが、いくら周到な計画でも現実にやってみるといろいろと想定外のことが起きるものだ。最大のハプニングは、ニコールに預けていた息子のルークがみんなと一緒に動物園見学に行ってしまったため合流できなかったこと。今さら計画の変更はムリ！息子の連れ出しは次の機会に。冷静沈着なジョンはそう決断したが、理屈よりも感情が先に立ってしまう妻のララは？ここで起きるハプニングは本作最大の「はっと息を呑む」見モノで、「これぞハリウッドの独壇場！」と言えるものだからそれに注目！やっとルークを拾い、エコ感覚に優れた車プリウスに乗せたジョンだったが、ここまで時間をロスしてしまうとデイモンの教えを忠実に実行できなかったことになるから、これから先は八方塞がり。乗客は誰しもそう思ったし、現実もそのとおりだったが・・・。

## ■□■思い込み、また思い込み。その利用が唯一生き残る道！■□■

「岡目八目」とか「灯台下暗し」という諺があるが、現実に生活していてそんな諺にうなづくケースは少ないものだ。しかし、よく練られた本作のストーリーを見れば、人間の思い込みの恐さ、その盲点になるほどと気付かされるから面白い。本作にみる盲点その１は、高速道路を中心に張った車の検問。脱獄犯の車に乗っているのは夫婦と子供一人。したがって、そんな車をすべての道路でチェックすれば、犯人の検挙は容易。ナブルシ警部補をはじめ捜査陣はそう確信したが、それを見込んだジョンの奥の手は？

盲点その２は、ジョンがどの国に逃亡するのかについての推理。ジョンの家の壁一面に貼られていた地図はジョンが脱獄計画実行に踏み切る時点ですべて破られゴミ袋に入れて捨てられたが、警察は地道な捜査の結果、遂にそれを発見！不十分ながらも壁にその破片をつき合わせていくと、ジョンの逃走先は○○と確定。よし、それならそのフライトを阻止すれば、ジョンたちの検挙は簡単だ。ナブルシ警部補はそんな計算どおりその飛行機のフライトを止め乗客を調べたが、意外にもそこにジョンたちはいなかった。そんなバカな！壁に復元したあの地図を見る限り、絶対まちがいないはずだ！ところが、それが人間の思い込み！一歩引いて、あるいは全く別の視点から考えてみると、なぜそのゴミ袋だけが警察に発見されたの？もし、このゴミ袋は警察に発見されることを見通して捨ててあったものだとしたら・・・？

今飛行機の座席に座っている３人の向かう先は、さてどこ？これを知っているのは、預かっていた息子を引き取りに来たジョンのリュック中に入っていた航空券を見たジョンの父、ルークの祖父ジョージ・ブレナン（ブライアン・デネヒー）だけだったが、もちろん、警察に聴かれてもジョージは知らぬ存ぜぬの一点張り。なるほど、諸葛孔明の兵法と同じ

ように、人間の思い込みや錯覚を最大限利用するのが唯一生き残る道なのだ。そんな本作ラストの教訓に、またまた大拍手！

## ■□■真犯人は？物的証拠のあくなき追及は？■□■

本作が１３４分の長尺になった理由の１つは、スリルとサスペンスに富んだ一大知能戦の興奮の中でジ・エンドとせず、ラストに２つの種明かし（？）シーンを用意したためだ。もし、あらゆる客観的な証拠の存在にもかかわらず、ジョンが一貫して主張したようにララが無実の罪だとしたら、真犯人は一体誰？当然それが最大の疑問だが、第１に脱獄に無事成功した後、真犯人についての種明かしシーンが登場するから、それに注目！

第２の種明かしは、知能戦で黒星続きとなった警察の名誉挽回的な刑事の執念が描かれるシーンだ。「現場百回」は捜査に臨む警察官の鉄則だが、脱獄犯に無事国外逃亡されてしまった後も、警察官は今また現場に。そこで思い出したのが、あの日も大雨だったという事実と指輪を落としたというララの供述だ。あの時は現場に指輪が落ちていなかったため、「その供述はウソだ」とされたが、大雨が降っている今、モノを落としてみるとそれは雨水の流れに乗って排水溝へ。すると、ひょっとして排水口の中に、ララの落とした指輪があれば？もしそうならララの供述の信憑性が明らかになり、ララの罪がヌレギヌだったことが明らかになるはずだ。そんな本能的な刑事魂によって２人の警察官が排水口のふたを取り除いてみたが、さて指輪はあったの？なかったの？

ここでのポール・ハギス監督の描き方がすばらしい。私の弁護士生活は３７年になるが、こんなシーンをみていると、やはり人間の力ではどうしようもないものがあることをまざまざと実感！やはり、何ゴトも人間の力には限界があることを意識した上でコトにあたらなければ・・・。

２０１１（平成２３）年7月２６日記